市長と話そう会（市内の中学生）
日　時：令和８年１月７日（水）
　　１６：００～１７：３０
場　所：武雄市役所３階会議室
参加者：武雄市内の中学生１３名

市民のみなさまと市長が直接語り合う「市長と話そう会」第４２回は、「市内の中学生」のみなさまと、学校課題（校則の在り方やタブレット授業のことなど）について幅広く意見交換しました。以下抜粋して掲載します。

【第１部】生徒代表（３名）による学校課題についてのプレゼンテーション

〇校則の在り方について
（生徒代表①）
・校則は安全・円滑な学校生活のために必要であり、全廃を求めているわけではない。
・社会・価値観が日々変化する一方で、校則のなぜが共有されないまま「昔から」「決まりだから」で守る現状。理由を理解して守ることとの間には大きな差が生じている。
・「我慢しろ、耐えろ」という前提での指導は限界がある。努力や忍耐は、理由に納得して向き合うから意味が生まれる。耐えるだけでは「考える・判断する力」は育たない。
・重要なのは「校則を考える対象にすること」。目的が合理的で、現実との整合性や方法の有無を生徒と学校が一緒に検討し、必要に応じて見直し続け、その理由を共有し続ける姿勢。
・時代に応じて不要となるルールも、新たに必要となるルールもある。「変わらないこと」を善とせず、「変わり続けるために考え続ける」ことが教育的価値を持つのではないか。
・校則の対話的見直し経験は、社会でルールを「考え、守り、改善する力」を育む生きた学びとなる。
・校則は「生徒を甘やかすもの」ではなく「生徒を信じ、育てるためのもの」。市長・教育長には「守らせるためのもの」から「考える力を育てるためのもの」へ考えを変えてほしい。

（生徒代表②）生徒会長として実際の公約と実践を具体的に報告。
・公約：みんなの声を無駄にしない／伝統を大切にしつつ新しい挑戦／校則を深く考える時間の創出／学校行事の進化／意見を聴く生徒会。
・実践：常時活動（旗、委員会、放送）、全校集会、平和集会、体育祭の種目、校則見直し、生徒意見の収集。タブレット活用で意見集約も試みた。
・成果：結束が深まる、生徒会を身近に感じる生徒の増加、先生方と深い対話の機会増加。平和集会は新聞記事化、被爆者の語りを動画化し全国の生徒と考える機会を創出。

・課題：校則見直しでは承認・チェックに時間（アンケート・プレゼンだけで 3 ヶ月、さらに「待って」と言われ続けた）、生徒主体と言いつつ許可・監督が細かく、信頼不足を感じた。体育祭における「理想の生徒像」と自分たちのありたい姿のズレも経験。
・価値基盤：日本が約 30 年前に同意した子どもの権利条約（第 12 条・意見表明権、第 13 条・表現の自由）を尊重。意見・立場・人種が違っても人は平等。

〇タブレット授業における教育手法について
（生徒代表③）
・授業の流れ：動画で文法学習 → 動画視聴に合わせてワークを解く → 教科書本文理解を自力で行う → 学びのまとめ・振り返りをタブレットに入力
・メリット：
▶ AI で会話練習・正しい発音の学習が可能。未知語やスペルの即時検索が容易。
▶ タイピング力の向上など将来有用なスキル獲得。自分のペースで進められる。
・デメリット／リスク：
▶ 端末を使いこなせない生徒が多く、入学直後は端末操作に注意が向き、本来の授業がおろそかになる。
▶ 授業中に関係ないことを検索したりしている場面を何回も見た。
▶ 理解したつもりで次へ進むことが多く、結果として本文理解不足、文法未定着、単語が書けないなど、基礎的な学力が身についていない。
▶ 内容が頭に入っておらず「中途半端な学力」で進級し、次年次授業についていけず、テストの平均点が低くなっている。他校と比べてもでも基礎不足が顕著で、受験の際に苦労する生徒が多い。
・教師側の実施継続への疑問：
▶ 学力が低いことが 1 年時から見えていたのに、なぜ継続したのか。タブレットで学力向上の可能性を実験的に試していたのでは。
・改善提案（ハイブリッド型）：
▶ まず教師が文法を直接指導し、全員の本文理解をクラス全体で確保（基礎の徹底）。
▶ その後に AI・タブレットを用いて会話練習・英作文などの応用へ展開。
▶ これにより「端末操作で悩む時間」が減り、文法・語彙の定着、応用問題へ進むための基盤整備が可能となる。

（市長）
・素晴らしい内容。この後の対話で「先生とどのように話したか」など、具体的な話を聞いてみたい。
・最も大事な価値は「自由」。しかし自由が好き勝手に運用されると社会も学校も混乱する。だから「ルールは自由を守るためにある」。
・憲法は最高法規として権力者の暴走を制約し、国民の自由を守るためのルールの根幹。校則も「何のためにあるか」を問い続け、本質的なものへ絞り込むべき。
・現行ルールを洗い出し、生徒全員で「絶対に守るべきもの」は何かを確認し、命に関わる

ことなど最重要項目から固め、全体を整理していく。そうした上で、この校則はどうなんだろうというものについて先生と相談していってみては。

・授業は「教える側／教えられる側」に固定せず、「先生と一緒に作る」ことで真の学びになるという視点を持っていることはとても素晴らしい。

（教育長）

・みなさんの堂々とした発表は素晴らしい。過去に武雄市内 5 校での話し合いの場があったが、コロナで中断した。今後はオンラインも活用した学校間対話の時間を創っていきたい。

・校則は既に一度見直ししたが、それで終わりではなく、時代変化に応じ「適宜、再見直し」を重ねる必要がある。自身の教員時代には制服切替日など過度に細かい規定があり、今となっては反省点であった。

・ある程度の決まりは必要だが、それは「適切な判断ができる大人」へ成長するための学びの一部である。締め付けではなく、その場に応じた服装・言動が自律的にできるようになる教育が重要。

・タブレットは「避けて通れない時代の道具」。コンピュータに委ねられることは委ね、人は人にしかできない判断・創造へ注力する学び方が大事。

・生徒会役員には学校リーダーとしての役割を期待し、受け身ではなく課題設定・解決志向で取り組んでほしい。

【第２部】グループに分かれ、３つのテーマについて討論

①校則について

・体操服のシャツをズボンに入れるか出すか、靴下のワンポイントデザインの禁止、名札の常時着用義務といった校則を変えようとアンケート調査を試みたが、教員側から「昔からそうだから」「生徒間で格差が生まれるから」といった理由で変更に至らなかった。

→既存ルールを全て書き出し、必要性を検討した上で生徒アンケートを実施し、教員へ意見を伝えてみては。

・靴下のワンポイント禁止は貧富の差を目立たなくするという公平性への配慮が理由であることが理解できたが、体操服の着方（シャツを出していいかどうか）については学校ごとにルールが異なり、基準が曖昧である。

・そもそも校則が、誰によって、どのようなプロセスで決められているのかが不明確。

・ルールを一方的に守らされるだけでなく、その必要性や妥当性を考え、対話を通じて見直していく必要がある。

②これからの学校の話をしよう（個別最適な授業や学校全般のことについて）

・タブレット授業から入ると、学びの初期段階で理解不足が生じやすく、時間経過とともに理解できないことが蓄積されていく。それにより理解度の差が生じてしまうので、最初は基礎を丁寧に教えてもらい、つまずきを早期に解消するような指導が重要。

・基礎基本の学習においては目の前の先生から直接教わりたい。目の前の先生から直接教わることが学ぶ意欲を高める。

・自分で調べてから先生に確認・質問する流れが自分には合っている。耳からの学習や動画

視聴など多様なスタイルを認め、各自に合う方法を選ぶことが重要。
・先生は基礎をしっかり教える役割を担い、個別指導とグループ指導を組み合わせて学びを進めるといった役割分担が必要。
・一方向の授業から先生と生徒が共同で授業を作り、教え合いで定着を図る授業へ移行する必要がある。実際、分からない人に教えることが知識の定着につながったことを実感した。
・先生と生徒が共に授業を作る時代。そのため、生徒から積極的に問題点を投げかけ、先生は生徒の提案を受け止め、共に授業を創っていく必要がある。
・これからはAIは避けて通れないものになる。AIに過度な依存はせず、社会や先生の仕事がAIに取られないよう、適切に使い分けることが重要。

③選挙権のない子どもたちの発言ができる場や機会の創出
・若者ミーティングや子ども会議などが以前はあっていた時は、各中学校間の繋がりがあり、生徒会活動も活発に行われると感じている。オンラインの活用で定期的な会議の開催も可能なので、円滑に生徒会活動が行えるようにするにはどうしたらいいか。
・トークフォークダンスがあった。その場で３年生は自分たちが思う課題をスライドにまとめて地域の人たちに発表していた。そういう機会があることで、地域の方々に子どもたちがどう思っているのかを分かってもらえるような気がした。そういう体験から、普段は関われないような人たちと関わる機会がもっとあればいいと思う。
・今回の話そう会のように、違う学校の人たちと話す機会があればいいなと思う。自分の学校以外でやっていることを共有できるし、いろんな意見を聞くことで視点を増やしていけると思う。
・いろんな場所があっていいと思う。生徒会メンバーで集まる場所や、ちょっと学校に行くのが嫌だっていう人たちは、一人じゃなくてグループで知り合った方が安心するっていう方もいるので、グループカウンセリングのような場所であったり、生徒会とかじゃないけど、もっとリーダーシップを深めたいっていう人が集まれる場所とかでもいいなと思う。それを子ども自体が行っても面白いかなとは思う。
・地域の人が繋がるのってすごく大事だと思う。小さい頃から、地域の人に「おはよう」って言ってもらったりすると、ものすごく支えられているなと感じることがあると思う。対話量を増やす、会話量を増やすっていうことが一番心が安心するんじゃないか。だからそれが大人とか子供とかいう垣根ではなく、そういう枠を外して話ができる場所を作りたいという気持ちが感じられた。
・先生と生徒という関係だと言いにくい部分がやっぱりあるが、その関係を抜きにすればもっといい会話ができると思う。
・いろんなバリエーションがあっていいと思う。ポイントの一つはやり方だと思う。型通りのことをやると、お互い形式的なものに終わってしまうので、今回は短縮バージョンだけど、もっと時間をかけてお互い一緒に解決する策を探っていくようなやり方が必要。もう一つのポイントは、これやってくれっていう要望じゃなくて、一緒に解決策を考えていくこと。私たちはこれやりたいんですけどっていう要望だけではなく、提案と一緒に作っていきましょうっていうところがあると、すごく建設的になってくるのかなと思う。

・オンラインを使うと開催のハードルは下がると思う。こういう会話の場が自分以外の学校でどんなことが行われているかを知る機会になるし、それを参考に自分の学校の課題の解決につながっていくと思う。
・各学校の生徒会によって集まるタイミングが違うので、調整は難しいところもあるかもしれないが、工夫すれば絶対できないわけではないと思う。まずは今回の振り返りの集まりをオンラインでやってみてはどうか。

〇まとめ

（感想）

・中学生の時に生徒会長していて、こういう交流会をしていて、お互いの生徒会のことを知り合って、自分のところでもこうしようかなと思ったので、すごく勉強になった記憶がある。みなさんもこういう機会ができて、いろんなことを実感できたと思うので、ぜひ持って帰って、学校でもできることがあればやってください。もしできることがあれば、残り3年生は少ししかないかもしれないけど、その中でできること。2年生はこれからだと思うので、ぜひ頑張ってやってみて、学校がより良くなるために、そのためにいろいろ決まりとかもあるのかなと思う。でも、よりよく自分たちが安心してより良く過ごせるように、いろいろ変えていって意見を出してくれたらと思う。
・これまでも話し合いの場はたくさんあったが、初対面の子たちとも話し合うことができて、いろんな学校の違いを知れて良かった。市長や教育長の話もたくさん聞けて、いい経験になった。
・他の学校と触れ合う機会っていうのは今までなかったが、今まで考えたこともないような意見も得ることができたので、こういう機会を持つことは大切だなと改めて思った。また、いろいろな意見を様々な視点で，考えることができ、とてもいい機会になった。
・次回、このような場を作りたいと思ったら、どこに相談すればいいか
→学校教育関係になると思うので、まずは学校教育課に相談してもらえれば。

（市長）

・今日は僕も楽しかったが、時間が全然足りなかったという印象。校則の話はちょっと時間足りなかったけど、そもそも校則ってあんまりみんなぼやっとしてるんだなっていうのが分かった。何が校則か、また、校則って誰が決めてるのかなっていうのも、実はあやふやなんだなっていうところもあったりとか、私自身もいろんな気づきがあった。授業は先生と一緒に作っていくものだっていうのは私自身も、それがこれからの学校スタイルだなっていうことで、皆さんはその先頭にいるんだなと、だから今回出た課題っていうのはおそらく最先端をいってるからこその悩みなんだろうなっていうところで、むしろ胸張ってこれからやっていけばいいんだろうなっていうふうに思った。また、先ほど提案したが、せっかくまずは今回は3つの中学校でやったので、オンラインでもいいので、3年生は時間がないかもしれないが、時間を見つけてもう1回振り返りをしてみてほしい。今日は2年生も来てるので、是非もう1回もっと時間をとってやりたいなと思った。とても勉強になったし楽しかったです。ありがとうございました。